



第7回かながわ教育学講座

10月28日(日)に、第7回かながわ教育学講座を開講しました。今回のテーマは「道徳教育」です。前半は大講堂で講義を聞き、後半は各教室に分かれてグループ活動を行いました。

道徳教育



前半は、総合教育センター 教育課題研究課 山口 利行 教育指導員による「道徳教育」の講義でした。

人間としてよりよく生きようとする人格的特性である道徳性を育てることが道徳教育の使命であること、また道徳教育は「特別の教科 道徳」を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであることについての話がありました。しかし現行の道徳の時間の現実として他教科に比べて軽んじられている様子があります。読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導になっていたり、分かり切ったことを言わせたり体験させたりしている状況も少なからずあることから、「特別の教科 道徳」として実施されるようになった、と目的や変遷等について詳しく説明がありました。

次に、授業の主な展開法として、導入では「日常生活の中からねらいとする価値に気づかせる」こと、

展開では「ねらいとする価値の追求・把握を行う」こと、終末では「日常生活の中への価値の広がり、価値の行為化への意欲付けを図る」ことが挙げられ、「考え、議論する道徳」を実現していくには、授業を討論型で展開することを期待されていると話がありました。

今回の講義を通して、様々な状況下におかれてもあたたかい心を持ち、人間らしく生き抜く子どもたちを育む大切さを感じ、その責任や重要性について考えることができたことと思います。



山口 利行 教育指導員



いのちの授業

神奈川県では、道徳の時間をはじめとして、あらゆる教育活動を通して子どもたちに「いのち」のかけがえのなさや夢や希望をもって生きること、人への思いやり、互いに支え合って生きることの大切さを実感してもらう『いのちの授業』の取組を行っています。また、県教育委員会から、各学校における「いのちの授業」のより一層の充実を図るとともに、家庭や地域でも『いのち』について子どもたちと考える機会が広がり、そして「百万通りの『いのちの授業』」が実践されることを願い、かながわ「いのちの授業」ハンドブックが作成されています。教育委員会のホームページからダウンロードできますので、一読してみたいかがでしょうか。

グループ活動



講義終了後には、各研修室に分かれてグループ活動を行いました。「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を目指し、全教育活動を通じて行うものである道徳教育について、協議をしながらさらに理解を深めていきました。

まず、ウェビングの手法について説明を受けました。ウェビングの「ウェブ」とはクモの巣（広辞苑より）という意味です。つながりのあるものを線で結びながら、新たな意見などを書き込んで網のように広がっていくため、考えを広げる時によく使われる手法です。

はじめに、学校で行われる教育活動にはどのようなものがあるか具体的に考え、5つの場面に絞りました。次に、選んだ教育活動の場面で、予想される子どもの活動や姿をより具体的に考え、模造紙に書き込みました。現場の経験のない受講者にとっては、予想される子どもの活動や姿を具体的に考えることは、難しかったかもしれません。しかし、グループ担当者から助言をもらいながら、班で意欲的に協議する様子が見られました。

その後、予想される子どもの活動や姿は、道徳科のどの内容項目とつながっているかを考え、書き足していきました。予想される子どもの活動や姿のすべてに、内容項目を書くことで、道徳科や各教科の授業はもちろんのこと、学校生活のどの場面においても、子どもたちの心を育む道徳的な実践の指導が可能であることが実感できたと思います。

最後は、発表を行いました。他の班の模造紙を見に行き、自分の班と重なる考えや異なる考えを聞いて深めていくことができました。

今回のグループ活動では、ウェビングの手法がチームで考えや思考を広げていくために有効な手立てであると感じることができたのではないのでしょうか。また「自己の考えを持ち、他者に適切に伝えたり、他者の意見を受け止めたりしながら考えを深め、教員として必要な思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力等を養う。」というグループ活動のねらいが、回を重ねるごとに達成できている受講者が増えていることを実感しています。受講者一人ひとりにとって、かながわティーチャーズカレッジでの学びが有意義なものになるよう、次回も積極的に取り組んでいってほしいです。

